



神ながらの道

決死隊は必ず死ぬのかといいますと、そうではありません。どんなにサタンの矢面に立とうと、地球を今守っている靈団が全部援助してくれます。それは私が地球神庁といっているものですが、但しそこに道が通じていないとだめで、通じる方法は「人は神」の愛の実践しかありません。今回の地球の回天事業は地球神庁の全エネルギーを地球に受けることによって行うものです。ですからそのエネルギーのパイプ役がとても必要なのです。しかし地球人はこれまでそのパイプをつなげる方法を知りませんでした。宗教でもヨガでも非常にすばらしいものをもっているのですが、ほとんどが自分のために自分一人のパイプをつなごうとしてきたのです。自分一人のパイプは細い細いパイプです。自分を全部捨てて

地球を救うための通路になるという生き方をする時、その人は太いパイプになるのです。これが私に言わせると「神ながらの道」です。

こうやって私たちは地球神庁の全エネルギーが人間という生命の樹とおして地球上に流れていける通路になるのです。その通路になるなり方——神ながらは、まず愛と奉仕が出来ないとためです。そして第二は天にある靈気を地上に伝える默想正座です。これは非常に単純です。呼吸法と意念の持ち方です。これが二大基礎です。だから愛と奉仕と默想正座ということをやっているのです。これができると通路になる条件が備わるのです。そうするともものすごいエネルギーが自分を伝わり始めますから、全地球神庁のエネルギーが守ってくれるようになります。ですから光の使徒は決死隊なのだけでもそれをやれば死ぬことはないです。死ぬどころか、ものすごいエネルギーを働かせてお役に立てるよう

になるわけです。そういう通路づくりをするために、基礎の愛と奉仕を伝えているわけです。（注）エネルギーの通路になるといいますと、黙想正座の双生児ともいうべきものがもう一つあります。私たちはこれを「リラの響き」と呼びます。これによって、私たちは地球神庁の大きなエネルギーを声という具体的波動に転化して、その波動を自分を通じて世界に広げることができます。